

**グループ
訪問**

大豆栽培がとりもった法人経営 7営農集団ガッチリスクラム 農事組合法人『上津田』誕生



後継者の育成をとはりきる
惣中敏之 代表

30 haの大豆栽培で法人化したとの情報をうけ、車で上津田地区へ、旅行村をすぎると左と右に壮大な田園風景がひろがる。ここが上津田地区、代表の惣中敏之様に逢うことができた「この地区のは場整備はH3年からのH14年頃までかかった。それより以前に、県に申請しながらも、こちらの都合で中止に追い込まれた苦い経緯がある。ですから当時は県からの信用度0からの出発で、地元の意気込みも違っていた」と話される。それから今日まで農業政策の流動化する中で各集落は頑張ってきた。「法人化でよくまとまりましたね」と聞くと、「今日の農業、法人化の道をとるか、担い手でゆくか、二つしかない。ですから気軽な気持ちで法人化を選んだだけです。運営方法も大豆栽培の場合、7営業集団の共通事項は、生産目標200 kg以上の数値と、播種量5 kgを守ろうといっているだけで後は各営業で取り決めている事を申し合わせているだけで

「肩はらず」めざすは「ほんものの農業」
法人化で担い手育成

す。ですから各営農集落で土地
選びをしたり地域の作業マニ
アルで作業員は動いています。
今後安定経営のためには、法
人化で人材育成をなしとげ、よ
り高い生産技術を身につけた
後継者を育てること。それが
達成された時、正に強い「上
津田」の農業が誕生するであ
らう。今後もし7つの集団で、
2つの集団が赤字傾向にむか
うと自分としては法人化に見
切りをつける事を考えている。
健全経営は大前提、赤字は長
く続けると大変な結果を生む。」と話される。

良品質の生産をめざす一方で、本気でリードしてくれる人材育成を心に抱きながら、じつくりと地についた健全経営で、上津田の農業を引っぱってゆきたいあつい思いが伝わってくる。人生の大半を農業施策を進める県の中心となりその中でつちかわれた技術がどこまで植えつけられて行くか大きな試練が立ちふさがる。来年から稲作90haをとりいれれば大変な組織形態ともなる。大きな希望と夢を持つて邁進される代表に頭の下がる思い、ガンバレのエールを送り成功を祈りつつ、上津田を後にした。

編集後記

暑さも日増しにつのるこの頃、町民の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、6月議会も終わり、今、町政を振り返ると住民に我慢をしていることばかり、行財政改革調査特別委員会を設置し約2年、改革に対し成果が問われる。日々皆様の叱咤激励をいただきながら引き続

き頑張つてまいります。
議会だよりはそういった
私たちと、皆さんの
架け橋だと思っていま
す。本誌を読んでもご
意見、感想をいただけ
れば幸いです。

(松本)



議会を傍聴してみませんか

次回定例会は9月です

無線放送でお知らせします。



播穂後の大豆ほ場

議会広報広聴調査
特別委員会

- ・委員長／小川信晃
- ・副委員長／仙光保喜
- ・委員／松本秀治・末盛守
田坂進・松浦敬潤